

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	○
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

活動団体名：福岡県みやま市

活動地域：福岡県みやま市

活動におけるテーマ

『地域で創る、選ばれる環境田園都市』

活動団体および活動地域の紹介

活動地域：福岡県みやま市

(福岡県と熊本県の県境に位置する市)

人口：35,191人（合併時43,631人）

世帯数：14,594戸（〃13,873世帯）

（2023.3月末現在）

面積：105.21km²

耕地面積：4,000ha

農地面積割合：38.6%



活動団体：みやま市(環境衛生課)

ごみ焼却施設の更新を機に、バイオマスセンターをH30年に建設し、地域の未利用資源である生ごみ・し尿等を原料に、肥料と電力を生み出し、新焼却場のコスト・CO2排出量・農業経費の削減と特別栽培による価格向上を実現した。

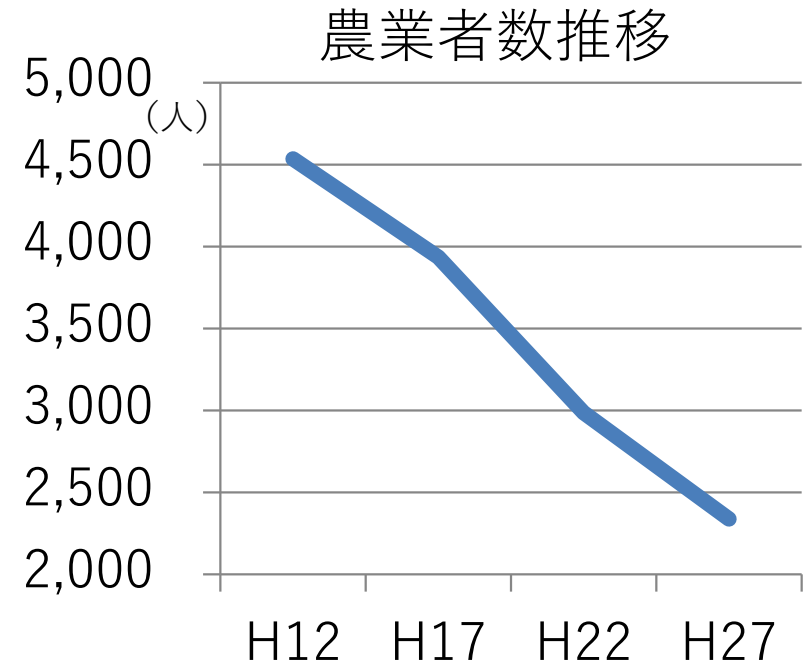


活動団体および活動地域の紹介

みやま市の課題（1）

農業の後継者不足

- ・ 農業者2,399人のうち67.7%が高齢者
→65歳以下の農業者は775人しかいない
- ・ 市の農地面積38.6%の管理する
- ・ 農業産出額124億円、食料品生産額250億円
(地域生産額割合25.7%) の基幹産業の維持



みやま市の課題（2）

低水準な地域経済循環率（RESASより）

	みやま市	八女市	柳川市	大牟田市	福岡県
2018年	64.7%	77.5%	69.7%	99.8%	92.0%

- ・ 生産（付加価値額）の低さと、エネルギー支出による地域資金の域外流出

今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「ステークホルダーミーティング」

【活動内容】

市内・近隣市の主にエネルギー、農業、環境に携わる方をステークホルダーとし、下記の日程でステークホルダーミーティングを実施した。

- 7/14第1回ステークホルダーミーティング
- 8/21第2回ステークホルダーミーティング
- 9/25第3回ステークホルダーミーティング

【成果】

ありたいまちの姿を「みやま有明自給圏」と決定した。みやま有明自給圏は、有明海に臨むこの地で、かつて現地人と渡来人が知見を共有しあって、農業や食品加工の文化を醸成したように、多様な人の交流を経て、エネルギー、肥料、高品質な農作物、ひいては高収益な農業・産業が自給できるまちを意味する。

【活動の様子（写真など）】



取組②「エネルギーサミット及び視察」

【活動内容】

ステークホルダーと共に、事業のタネのアイデア探しのため、第1回全国地域エネルギーサミットとヤンマーエネルギーシステム(株)のもみ殻バイオ炭製造機を視察

- 10/28 もみ殻バイオ炭製造機視察
- 10/29 全国地域エネルギーサミット
- 11/14企業マッチングイベント
- 2/8 豊後大野市竹利活用視察

【成果】

地域の未利用であるもみ殻の有効活用方法がバイオ炭製造機の視察をもって、イメージすることができた。またバイオ炭して活用することは地域課題を解決する手段になると考えた。エネルギーサミットでは選定地域の担当者とお人脈ができ、登壇者の経験談を通して見識が広がった。

【活動の様子（写真など）】



取組③「庁内の推進体制構築」

【活動内容】

ステークホルダーミーティングで決定した「みやま有明自給圏」を実現する事業構想案を市長・副市長に提案した。また事業案を7つのプロジェクトに整理し、庁内推進体制(案)を庁内会議にて提案した。

- 11/22市長副市長協議
- 12/27第1回庁内会議
- 2/14第2回庁内会議

【成果】

市長・副市長共に事業構想に納得いただき、方向性を定めることができた。また2回の庁内会議を経て、事業構想の共有、推進体制を構築した。今後は7月の申請に向けて幹事課と外部有識者による分科会を実施し申請内容の詳細を詰めていく。

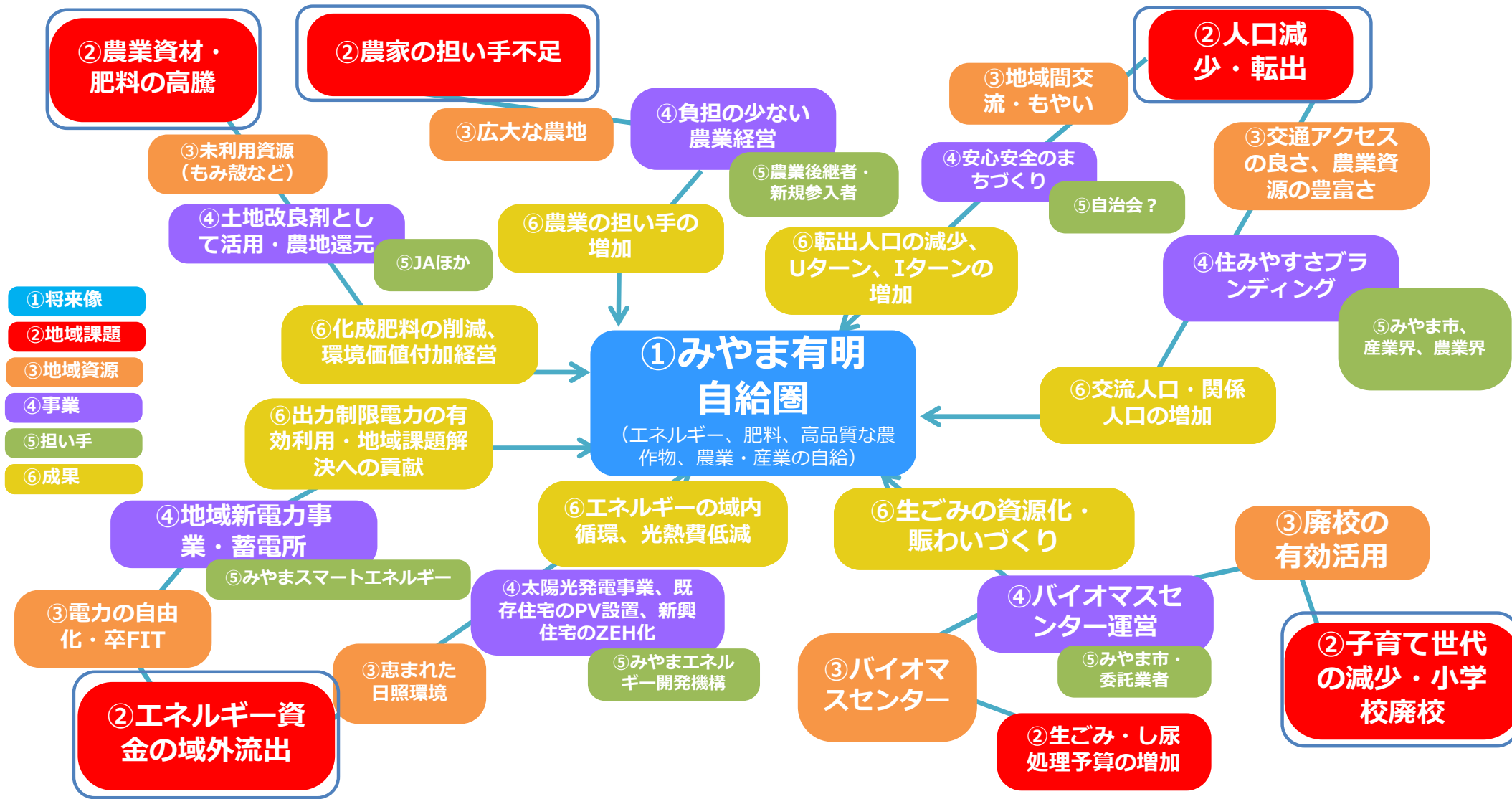
【活動の様子（写真など）】



年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング			◆中間共有会					◆成果報告会	
ステークホルダーミーティング等				キックオフミーティング	ステークホルダーミーティング	ステークホルダーミーティング		庁内担当者協議 市長副市長協議	分科会 庁内協議 分科会		庁内協議 分科会	成果報告会
先進地視察						先進地視察	全国地域エネルギーサミット	環境省協議 農家聞き取り	市内現地確認 市内現地確認 事務局勉強会		先進地視察	先進地視察
ワークショップ等					職員WS			企業マッチング				

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



みやま有明自給圏とは

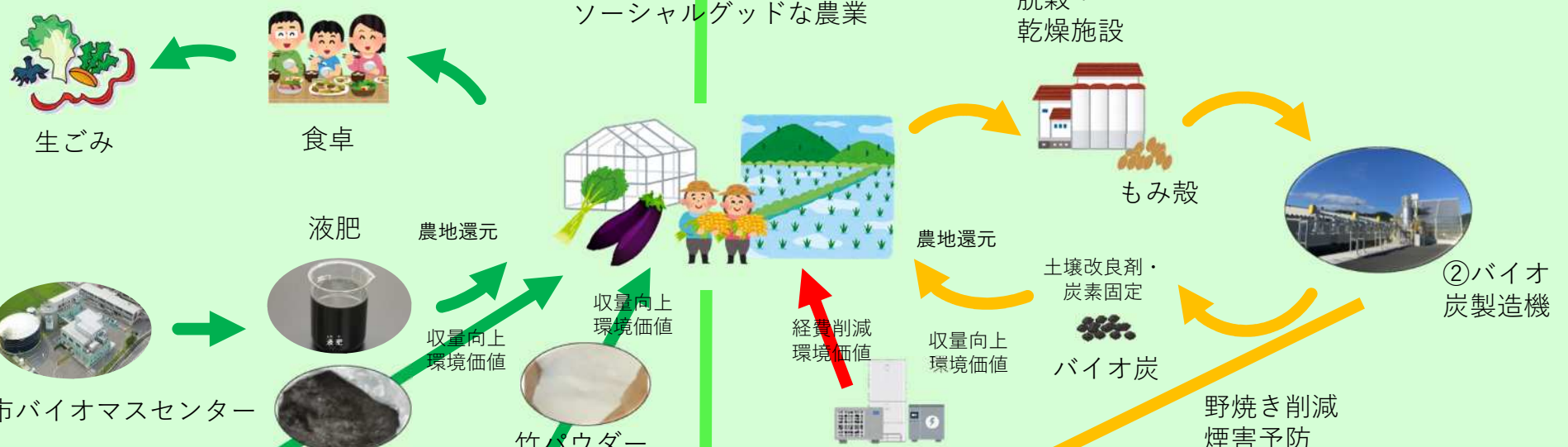
経済

④パネル等の設置による経費削減

⑤パネル等の設置による経費削減



環境



暮らし

⑦庁舎・避難所のZEB化

③放置竹林の整備

安全な食事 所得増加と矜持

①ヒートポンプ (電動加温機)

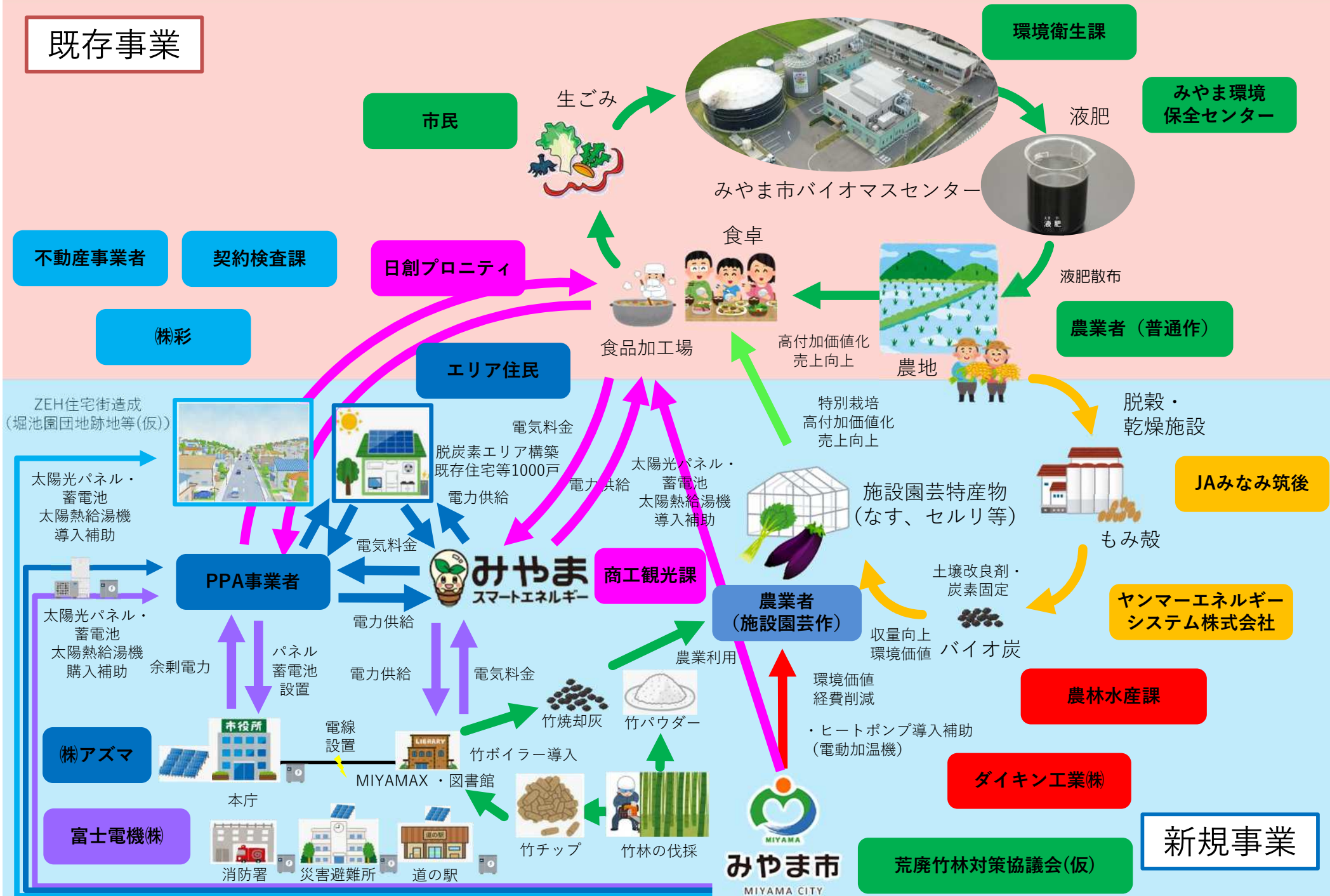
⑥ZEH 住宅街造成

⑤ZEHエリア 構築事業

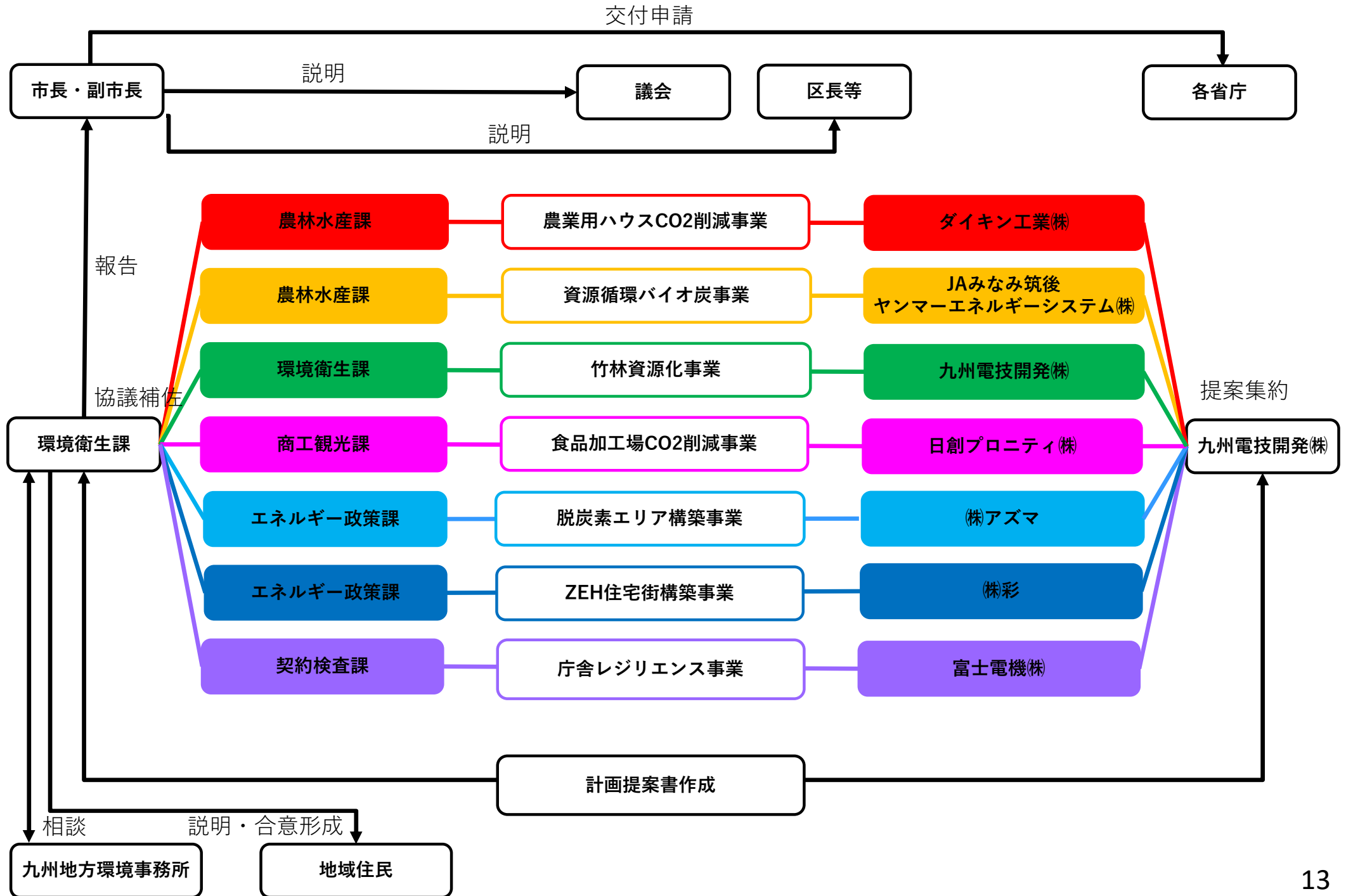


みやま市が目指す地域循環共生圏構築スキーム＝プラットフォーム①

既存事業



みやま市が目指す地域循環共生圏構築スキーム＝プラットフォーム②



取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

成果

- ①当初の目的であった地域課題の掘り起こしができた。
- ②脱炭素先行地域を目指すに値する大義（ありたいまちの姿）が完成した。
- ③脱炭素先行地域でどの部分を実現していくか整理できた。
- ④ステークホルダーと共に先進地視察を行い、現地で担当者から先進的事業を共に学ぶことで事業の共感を得ることができた。
- ⑤上記の成果をもって、市長・副市長の了承を得て、全庁的な取組に昇華出来た。
- ⑥みやま市の脱炭素社会実現のロードマップができた。

新たに見えてきた課題

- ①事務局で構想したイメージを企業、市民に伝える機会の創出
- ②地元金融機関の巻き込み⇨事業の費用対効果の精査
- ③関係者（市民・市内企業）の機運上昇

活動における今後の展望



将来的展望

・当面（今夏迄）は、脱炭素先行地域の申請・採択を目標とする。そのために前述する推進体制で事業性の精査を行い、受益者との協働を仰ぐ。その後このスキームをみやま市地球温暖化対策実行計画の見直し期に当計画に盛り込み、市の脱炭素のロードマップとして採択の有無に関わらず実現していく。

プラットフォーム形成のポイント

プラットフォーム形成で苦労したこと、工夫したこと

・ 工夫したこと

- ①これまで環境衛生課や他部署とそれぞれで交流があった企業を、一堂に会し、多様な企業同士の交流を深めたこと。
- ②今回のミーティングで、参加者の意見をまとめたありたいまちの姿を脱炭素先行地域に選ばれることで実現することを共有したこと。
- ③ステークホルダーミーティングを3回開くことで、段階的に地域課題の炙り出し、ありたいまちの姿の形成、その打ち手（事業）のアイデア出しができた。

・ 苦労したこと

- ①難解なことは事務局で対処すること
参加者にはアイデア出しに専念してもらうために、次回の協議に向けて事務局が徹底的に話し合い、ミーティングで出た意見の真意を汲み取ることに専念した。
- ②他部署の理解
地域の課題は、そのほとんどが部署横断的なものである一方で、縦割りの壁は厚く高い。縦割りの壁に横串を刺すことの大変さを実感した。

参考：アクションサイクル・モデル Ver 1.0

地域のビジョンを描く

- 地域の関係者の話を仲間と共有する
- ありたい未来と現状との差を把握する
- 地域の構造を可視化・言語化する
- 外部にありたい未来を発信し、反応を得る
-

仲間を探す

- 地域にどんな関係者がいるかを調べる
- 関係者を訪問し、実際に話を聞いてみる
- 関係者と定期的に情報共有を行う
- 関係者に想いやメリットを伝え、参加の機会をつくる
-

体制を整える

- プラットフォームの機能や取組などの全体像を整理する
- 事務局(マネジメント)機能を設ける
- 自治体の総合計画や政策との関わりをつくる
- 実務的な役割をプラットフォーム内外で分担する
-

全ての項目は
互いに関わり
あっており、
順不同

事業を生み出す

※主に「事業化支援」の段階で実施する項目

- 事業/事業計画に関する基礎的な情報を提供する
- 事業計画の内容を聞き、ともに考える
- 先進的な事業を学ぶ機会をつくる
- 事業の試行を支援する
-

事業を考える

- 地域へのインパクト(効果・影響)を考える
- すでに地域にある既存の事業を整理する
- 事業の実施主体や支援者を探し、つながる
- 継続的に事業のタネが生まれる“仕組み”をつくる
-